CIEP2022 参加者

国際食料情報学部国際食農科学科 4 年　冨田恵莉

「私が今回の研修を一言で表すと「農業・食・地域は伸びしろだらけだ！」です。世間一般や大学だと高齢化や過疎化など様々な課題があると学び、ネガティブな情報が多いと思います。しかし、県の職員さんや市場、神子原の武藤さん、春蘭の里のおじいちゃんおばあちゃん、ドローン事業を担う方々など地域のために楽しく活動している方は沢山いることに気づきました。そして県外出身の私から見る石川県はおいしい食事や棚田、人の温かさ、歴史など魅力が詰まった地域でした。
そこで今後、現状の課題を解決し地域が活性化するために私にできることは何か考えました。私は来年から旅行関係の会社に就職します。今の旅行は消費者重視のプランが多いですが、農業や食・地域など受け入れ側にもプラスになるような旅行を売りたいです。
また魅力を発信するために実際に赴くことが大切だと感じました。農大の実学主義にも共通しますが、教科書やネットでは分からない自然や人など肌で感じる良さが地域にはあると思います。地域に触れて何が魅力で何が課題でどうすればいいのかまずは知る、そして発信していき住民や自治体など巻き込むことが活性化につながると思います。（久田和紙も一度途絶えた文化でしたが、１人の教員により復活しました。その際も周りを巻き込んでいくことで文化が守られたと聞きました。）
私は農業機械を開発したり、農業で食べていけるわけではありません。しかしながら発信する立場として農業や地域を活性化していきたいと思います。そして協力者が増えたとき、持続可能な社会が実現すると思います。」